

成果報告書（市区町村用）

文化部活動の地域移行に向けた実証事業

自治体名・担当部署		川崎市 教育委員会事務局学校教育部健康教育課	
所在地		神奈川県川崎市	運営形態 ・地域移行・市区町村運営型 ・地域移行・団体等運営型
本事業に関する市区町村としての取組・考え		・休日の部活動が行われることが多い吹奏楽部、演劇部において、生徒の活動の機会を確保しながら、教員の働き方改革を進めることにより、将来的に持続可能な部活動の在り方を検討していく。 ・吹奏楽部は、市内で受託可能な団体がない状況のため、国が示す市町村直営型を採用し、地元の音楽大学との連携による試行的な取組を行う。 ・演劇部は、市内に拠点を置く演劇団体やその他民間事業者等の活用を前提に、部活動支援に関する事業委託による取組を行う。 ・異なる運営形態による取組を進めることで、休日の文化部活動の地域移行における課題について幅広く検討する。	
運営主体		川崎市教育委員会、リーフラス株式会社	
事業目標		・吹奏楽部については、中学校5校をモデル校とし、市内にある2つの音楽大学（昭和音楽大学、洗足学園音楽大学）の協力により、大学生や卒業生の指導者を派遣し、休日の部活動指導を行う。 ・演劇部については、中学校1校をモデル校とし、委託先の民間事業者（リーフラス株式会社）から派遣された指導者による休日の部活動指導を行う。 ・顧問、生徒、保護者へのアンケートやヒアリングにより実態把握を行う。	
団体・組織等の連携		<pre> graph TD A[川崎市教育委員会事務局] <--> 相互協力 B[市民文化局 市民文化 振興室] A -- 事業実施委託 --> C[民間事業者] A -- 部活動支援に関する協 --> D[音楽大学] C --> E[中学校1校 (演劇部)] D --> F[中学校5校 (吹奏楽部)] </pre>	
運営・協議会等スケジュール		川崎市立中学校の部活動に係る懇談会（2回）、吹奏楽部指導者事前研修（1回）	
活動種別		吹奏楽、演劇	
活動スケジュール	基本活動日	各学校の休日の部活動の状況による（基本は土曜日の午前中3時間の活動）。	
	年間	各学校のスケジュールによる。吹奏楽部は、7月に川崎吹奏楽コンクール、8月に神奈川県吹奏楽コンクールが開催される。	

活動場所		吹奏楽：校舎内の音楽室、教室など。 演劇：校舎内の多目的スペースなど。
移動手段	生徒	今年度は学校外での実施は無かった。
	楽器等用具	今年度は学校外での実施は無かった。
参加者	学校名、人数等	吹奏楽：日吉中学校（１４名）、橘中学校（５４名）、高津中学校（５１名）、 西高津中学校（４９名）、稲田中学校（４２名） 演劇：西中原中学校（１７名）
	募集方法	各部活動の部員が参加
指導者	属性、人数等	吹奏楽：市内の２つの音楽大学の学生・卒業生　１０名（各モデル校に２名） 演劇：委託先の民間事業者の指導人材（演劇及び学生指導の経験者）　１名 統括責任者　１名
	募集方法	吹奏楽：中学校が希望する楽器の指導者を、音楽大学の推薦により決定 演劇：委託先の民間事業者により募集・決定
活動費用	指導者謝金等	吹奏楽：指導者謝金１，６００円／時間、事前研修講師謝金１２，０００円 演劇：指導者、統括責任者　委託事業者の規定による賃金
	その他	なし
活動財源	会費等	今年度は保護者負担は無かった。
	その他	なし
保険加入等		吹奏楽：指導者のスポーツ安全保険　８００円／人　学校管理下のため、生徒は スポーツ振興センターの災害共済にて対応 演劇：指導者の賠償責任保険、生徒の団体総合補償制度費用保険
ヒアリング、アンケート等実施 ※集計結果等があれば別紙で提出ください		吹奏楽：顧問ヒアリング（１月） 演劇：生徒・保護者アンケート、顧問ヒアリング（１月）

○本年度の取組み状況の概要

ア:関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

- ・市吹奏楽連盟をはじめ、社会人の吹奏楽連盟、県中学校文化連盟などの団体との連絡調整を実施
- ・2つの音楽大学との事業実施における連絡調整の実施等

イ:指導者の質の保障・量の確保

- ・吹奏楽部については、市内にある2つの音楽大学と部活動支援に関する協定を締結し、大学の推薦する人材を派遣するとともに、中学生に対する部活動指導の観点から事前研修を行うことで、指導者の質の担保を図った。
- ・大学から人材を推薦してもらう事で、必要な人材を必要な人数確保することができた。
- ・演劇部については、委託事業者により募集・事前研修を行った。人材の選定から研修まで、経験のある事業者が実施する事で、指導者の質を確保すると共に、継続的に人材を確保することができる。

ウ:関係団体・分野との連携強化

- ・地域の関係団体(吹奏楽連盟、吹奏楽団、文化財団、劇団)に対して、ヒアリングを実施
- ・川崎市文化協会加盟の文化団体に対してアンケートを実施

オ:内容の充実

- ・吹奏楽部については、事前に中学校からどの楽器の専門指導者に来てほしいか等の聞き取りを行い、音楽大学に伝えることで、中学校が希望する楽器指導を実施できるようにした。
- ・吹奏楽におけるパート別練習で、専門の指導者から、音の出し方などの具体的な指導を受けることで、生徒の技術の向上に繋がった。
- ・演劇部については、演劇を専門的に指導できる教員は少ないという状況もあり、外部の専門指導者の指導により、生徒の演技力が高まる、演出の効果を実感できる等の充実した活動を行うことができた。

キ:活動場所等の確保

- ・吹奏楽部・演劇部とも、校舎内で活動しているという点で地域移行には課題があり、今年度は完全に学校管理下外で休日の部活動を行うことはできなかったが、顧問や学校管理職との意見交換を通して、学校管理下外での活動方法を検討した。
- ・休日に地域に開放している特別活動室等の利用することで、学校管理下外で活動できる可能性はあるが、楽器や物品を校舎内に取りに行けないことや、地域団体の活動時間と競合する等の課題が挙げられた。

○地域クラブ活動の概要

【吹奏楽部】

- ・川崎市教育委員会と市内の2つの音楽大学との間で、部活動支援に関する協定を締結(令和5年9月)
- ・音楽大学から推薦された指導者10名(中学校5校に対して2名ずつ)に対する事前研修を実施(同年10月)
- ・指導者による休日の吹奏楽部指導を実施
日吉中学校(6回)、橘中学校(4回)、高津中学校(6回)、西高津中学校(1回)、稲田中学校(7回)(令和5年12月～令和6年1月) ※指導者1名1日の指導を1回とする
- ・中学校が希望する楽器を専門とする指導者(音楽大学の学生及び卒業生)によるパート別練習等の指導
- ・顧問に対する聞き取り(指導の効果、働き方等)

【演劇部】

- ・指導者(1名)による休日の演劇部指導(9回)(令和5年9月～令和6年1月)
- ・演劇及び学生指導の経験がある指導者により、効果的な指導を実施
- ・基礎練習の他、12月の学内の公演に向けての指導を実施

○本事業による成果

●吹奏楽部については、指導者の派遣期間が二ヶ月間と短くアンケートが実施できなかったため、顧問に対する聞き取りを行った。

- ・パート別指導は人手がかかるので、技術指導に入ってもらえるのは助かる。
- ・自分の専門ではない楽器の指導をしてもらえた。
- ・顧問は合奏指導をして、パート別の練習は指導者に任せることができた。

●演劇部については、顧問のヒアリング及び顧問・生徒・保護者へのアンケートを行った。

(顧問)

- ・部活動中、指導は指導者に任せて、別の仕事をすることができた。
- ・立ち位置や動き方など専門の指導者の指導を受け、演技力が上がった。生徒も「なるほど」という感じがあり、充実した活動になっていた。

(保護者)

- ・子どもが意欲的に取り組んでいた。
- ・地域の指導の方に来ていただいて、メリハリのある活動ができた
- ・楽しそうに活動していた。

(生徒)

- ・専門指導が受けられるようになった点が満足
- ・上達を実感できた。

○児童・生徒への指導に関する工夫

※顧問と地域指導員の連携や指導方法の共通認識に関する工夫も含めて記入。

・吹奏楽部については、パート別に分かれての練習が多いこともあり、指導者が休日の部活動指導を行った際は指導内容等を「指導記録簿」に記入して顧問と共有し、翌週の平日の部活動指導に支障が出ないようにした。

・演劇部は、活動場所が校舎内であることもあり、複数顧問のうち1人は部活動に参加している状態のため、部活動中に顧問と指導者の間で随時情報共有を行った。

○運営上の工夫

※活動場所に中学校など学校施設を利用している場合の校舎・鍵の管理の現状・工夫も含めて記入

・活動場所については、吹奏楽部・演劇部ともに校舎内のため、現状では外部指導者のみによる学校管理下外の部活動は実施できなかった。顧問のうち1人は休日の活動に参加し、校舎を開けている状態。

- ・外部の指導者が休日の部活動指導にあたることで、複数顧問のうち1人は参加し、他の顧問は休める体制を構築した。
- ・今後、地域に開放しているスペースの活用等の可能性を検討していく。

○本事業における実証結果や成果の評価・分析

●吹奏楽部については、実施期間が二ヶ月と限られた期間とはなったが、顧問へのヒアリングからも指導者の楽器指導による生徒の技術の向上や、パート練習を任せられる、顧問の土日に休める日が増えたとの意見が見られた。

●演劇部については、顧問のヒアリング及び顧問・生徒・保護者へのアンケートを行った。専門指導が受けられることで楽しい、技術が向上した等の好意的な意見が多くある一方で、外部の指導者が部活動指導をする状況に慣れないといった意見も見られた。

○現状及び継続的な運営に関する課題

- ・吹奏楽部、演劇部のように、校舎内で活動している部活動については、校舎や鍵の管理に課題がある。外部の場所では、楽器運搬の負担がある。
- ・活動場所の課題もあり、顧問が1人は参加しなければならない状況のため、教員の働き方に対する効果が小さくなる。
- ・会費の徴収について今後検討するため、現在の部費の状況等を把握する必要がある。

○令和6年度以降の学校部活動の地域移行に関する方針・計画

- ・吹奏楽部については、音楽大学と連携した指導者派遣について継続して実施する。
- ・演劇部については今年度の成果と課題を踏まえ、他の文化部の種目の変更も視野に入れながら、民間事業者に委託する形で、指導者派遣を継続して実施する。
- ・活動場所の課題について、学校等との意見交換を続け、解決策を検討する。
- ・令和5年度から「川崎市立中学校の部活動に係る懇談会」において地域移行を含めた部活動のあり方について意見を聴取しており、令和6年度も実施する。
- ・一定の期間に指導者を派遣した上で、教員の働き方を含めた効果について検証する。
- ・生徒、保護者、顧問に対してアンケートを実施する。

【活動の様子（写真添付）】



指導者による指導の様子(吹奏楽部)



指導者による指導の様子(演劇部)